

令和7年度 地域情報化アドバイザー制度活用報告書

地域情報化アドバイザー制度の活用実績について、下記のとおり報告します。

記

1. 申請団体情報

1－1. 申請団体

団体名	上毛町			代表者名	0979-72-3111
担当者部署(属性)	情シス担当	担当者部署名	DX推進班	連絡先電話番号	0979-72-3112
担当者役職	主事	担当者氏名	中 亮太郎	連絡先E-mail	
住所	871-0992 福岡県上毛町垂水1321番地1				

1－2. 推薦団体（「区分」が「協議会」または「NPO・商工会・大学等」の場合のみ入力）

団体名		連絡先部署	
担当者氏名		連絡先電話番号	連絡先E-mail

1－3. 支援を求める内容

支援方法	職員向け啓発・研修（単独）	事業名	行政DX人材育成研修（実践スキル向上）
概要	業務改善を行うための前提となる思考能力（論理的思考等）を養い、組織全体の効率化を実現することを目的とした研修を実施		
支援を求める分野	人材（DXに関する知識習得・研修・育成）		

2. 地域情報化アドバイザー派遣実績

2－1. 対応日・時間	期日・支援内容の変更あり	受付番号	変更後の派遣日	変更後に実施した支援内容	実地/オンライン
	無				
	派遣日予定日（申請書より）	支援内容（申請書より）	開始時刻	終了時刻	内休憩時間（分）
	令和7年6月25日	支援・助言&講演(オンライン)	14時00分	16時00分	
				活動時間（分）	120
2－2. 派遣場所	会場名	オンライン		最寄駅	オンライン
	所在地	オンライン		最寄駅からの交通手段	オンライン

3. 派遣アドバイザーに対する評価と要望

支援を受けたアドバイザーに対する評価をお願いします。

アドバイザー	藤井 靖史
評価	大変良い
上記評価の理由（どのようなところがよかったか等詳細に）	単なる知識の提供にとどまらず、参加者の意識改革を強く促す内容であった。また、デジタル技術の導入を目的化するのではなく、「変革（X）」を起点に業務をゼロベースで見直すことの重要性を強調するなど、実践的かつ本質的な助言を多数いただいた。 また、講義中や意見交換の場でも一方的な講義形式ではなく、参加者の発言を丁寧に受け止め、対話的に進めることで、思考を深める姿勢を引き出していた。特に「イシューの明確化」や「CREC法の活用」に関する指導は、日常業務における課題整理や改善提案に直結する内容であり、多くの職員にとって気づきの多い機会となった。
アドバイザーへの要望事項	特になし

4. 依頼内容及び支援を受けたことによる成果・効果

4－1. 支援を受けた対象者	属性（職員、一般、企業等）について【自由記述】		合計人数	8人
	属性	自治体職員	住民	企業・団体
	人数	8		その他(学生など)

4－2. 支援を受けるにあたって目指した成果と実勢に支援を受けたことで改善又は解決した成果・効果

事業の課題・問題点（具体的にご記入下さい）	業務改善に必要な論理的思考法やデータ活用スキル等の実践的スキルの不足が課題として挙げられている。
支援により目指す成果（具体的にご記入下さい）	アドバイザーの派遣により職員の論理的思考力や業務改善能力を高め、行政サービスの質と迅速性を向上させることで、住民が安心して快適に暮らせる地域社会の実現を図る。職員が自ら課題を的確に捉え、主体的に解決策を講じる力を養うことで、住民の多様なニーズや課題に対し、よりの確かつ迅速な対応が可能となり、日常生活における利便性や満足度の向上に繋げる。さらに、業務の効率化によって創出された人的・時間的資源を、住民一人ひとりに寄り添った行政サービスの充実や地域課題への対応に活用することで、地域全体としての生活環境の質を高め、住民にとって「居住継続意欲の向上」および「地域に対する愛着や誇りの醸成」を図ることを目標とする。

アドバイザーに支援を受けた内容 (具体的に記入下さい)	・dX推進員向けの人材育成研修(第1回)の講師として登壇。 ・前半ではDXの基本的な復習を通じて、「なぜ今DXが必要なのか」「技術に振り回されない視点」の重要性について講義。 ・後半では「クリティカルシンキング」をテーマに、演習(負けるじゃんけん・ 이슈設定・CREC法を用いた議論)を通じて、課題の本質を見極める力や論理的思考力の向上を図る内容を実施。 ・演習中は参加者からの疑問や意見に対し、対話を重視した進行で、多様な考え方を引き出す支援を行った。	
支援を受け改善又は解決された内容 (具体的に記入下さい)	・「DX=デジタル導入」という表面的な理解から脱却し、業務を抜本的に見直す「変革(X)」の重要性について職員間で共通認識が形成された。 ・課題整理や会議での議論において、 이슈(本質的な論点)を意識する重要性を学び、日常業務でも実践し始める契機となった。 ・論点を明確にした上で主張と根拠を提示する「CREC法」により、業務改善提案の質向上にもつながる見通しが得られた。 ・講座内容を通じて「情報は集めるものではなく、自ら取りに行くもの」という意識が醸成され、AI等の活用に対する心理的ハードルが下がるなど、今後の実践につながる土台が整いつつある。	
具体的な成果物	最も当てはまるものをリストより選択下さい。	⑥途中段階であり、具体的な成果物はできていない
	途中段階であり、具体的な成果物はできていない	
改善又は解決されなかった内容 持ち越しとなった内容 (具体的に記入ください)	特に無し	
アンケートの内容と分析結果	講演・セミナー又は個別の事業支援の実施にあたりアンケートを行った場合は、その内容と分析結果についてご記入下さい。(EXCELやPDFでの分析結果を添付されても結構です。) アンケートを行わなかった場合はその理由をご記入下さい。 本支援は全6回にわたる連続講座として実施しているため、各回終了時点でアンケートは実施していない。最終回終了後に総括的な受講者の理解度や変化を把握する予定。	
4-3. 今後の計画	最も当てはまるものをリストより選択下さい	①予算は確保済みであり、年度内に推進する
	月1回程度の定例ミーティングを開催し、以下の取組を効率的に進める。 (1)dX推進員レベルアップ連続講座(～10月予定)※一部、本アドバイザー派遣制度を活用 (2)研修で身につけたスキルを活かし業務改善を実践する(11月～3月)	
4-4. 事業の最終的な目指す姿	町が抱えるさまざまな行政課題の解決に向けて、論理的思考などの思考法を養い、職員一人ひとりが自ら業務改善に取り組み、組織全体の効率化を実現できるようになることを目指す。	
5. 報告書に関しての地域情報化アドバイザーホームページ「派遣事例」への掲載許可		
掲載許可	☐ 掲載可	
なおくその他>を選択した場合、具体的な記入が必要となりますのでご注意ください		
6. 地域情報化アドバイザー支援の様子		
今回の派遣における地域情報化アドバイザーの支援の様子がわかる「写真(JPEG等)」を数枚程度貼り付けて下さい。		
		